

IV. 2017（平成 29）年度 <実習指導者調査>

効果的な臨地実習指導を行う実習指導者のための研修プログラムニーズ調査

1. 研究方法

「効果的な臨地実習指導を行う実習指導者のための研修プログラムニーズ調査」インタビューガイドを用いた、半構造的面接法による質的記述的研究。

2. 対象の選択

病院で勤務し、実習指導者講習を受講して3年以内かつ、現在学生に対する臨床指導者の役割を担っている看護師10-15名程度。本研究班の研究分担者・研究協力者を通して異なる施設を3-5箇所紹介してもらい、それぞれの看護部門の責任者に対し、研究概要説明書とインタビューガイドを送付し、インタビューへの協力を依頼した。なお、当該施設に該当者が複数いる場合は、フォーカスグループインタビューを実施した。

3. インタビューの実施

インタビュー開始前に改めて本研究の概要と倫理的配慮について説明を行い、同意書に署名を得た。インタビューはできる限りプライバシーが保てる個室で実施した。

4. データ収集期間

2017年9月から11月

5. データ分析方法

同意を得たうえで録音し、逐語録に起こしたインタビューデータについて、インタビューガイド（資料③）の項目に沿って分類して記述した。項目ごとに内容が類似したものを抽出し、それらの共通性に基づいてまとめた。

6. 倫理的配慮

2017（平成29年度）<教員調査>と同様の配慮を行った。

7. 結果

1) 実習指導者講習会参加の経緯

実習指導者講習会の参加の経緯として、①上司の勧め、②実習生の指導経験における喜びや意欲、③実習生の指導経験における不安や躓き、④学生への苦手意識、⑤新

規の実習受け入れや前任者の異動、⑥プリセプターとしての成功体験の7つが語られた(表30)。

表 30 実習指導者講習会参加の経緯

上司の勧め	<ul style="list-style-type: none"> ・ きっかけは上司から声をかけられて。 ・ 私も上司からの勧めです。 ・ 上司からその(実習指導者講習会の)話を頂いたときに、じゃあちょっとお勉強してみたいですって。 ・ (実習指導に)自信が無くてどうやって勉強すればいいのかわからないのを師長に相談したら実習指導者講習会を紹介されたって感じです。 ・ 私は全然感じては無かったんですけど、すごい(指導者)向きよって、勧められて。
実習生の指導経験における喜びや意欲	<ul style="list-style-type: none"> ・ もともとちょっと教育関係がやりたいなっていうのはありました。 ・ 学生指導とか、そういう指導にもちょっと興味があったので、是非行ってみたいと思って参加しました。 ・ (講習会へ)行きたいという人は結構多くて、師長さんに声掛けられるのを待ってる人が結構いる。
実習生の指導経験における不安や躓き	<ul style="list-style-type: none"> ・ 看護計画を指導したら一文字も直らないで(学生から記録が)返ってきたんです。じゃあ、どういう指導をしてあげたらよかつたんだろう(と思った)。 ・ 素人のやり方でやっていて、効果的な指導につながっていなかったっていう、やっぱり失敗体験があるので。 ・ あの時どうしてあげたらよかつたんだろう(と思った)。 ・ ずっと(実習指導を)やり続けて、躓くのはいつも同じっていうか。 ・ 指導に限界を感じて。 ・ 指導っていう面で、何も素人なので、やっぱり自分の中でモヤモヤしたものが大きくなり(研修に参加しようと思った)。
学生への苦手意識	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単純に自分自身が学生に対して苦手意識があった。 ・ 分からない学生に対してどういうふうに伝えていいのかわからなかった。 ・ (自分の発言で)学生が泣いちゃったことがあった。 ・ 「(学生から見ても)怖かったみたいです」って言われてもう一度自分の指導の仕方を学んでいこうかって。 ・ 何か言ってもわからない学生にはどうアプローチしてよいかかわからなかった。
新規の実習受け入れや前任者の異動	<ul style="list-style-type: none"> ・ (自部署で)実習を受け入れることになり、だれが行ってくれなきゃ困るってなった。 ・ (自部署で)実習の受け入れをスタートしたのでちょっとでも関わればと思った。 ・ 翌年から実習を導入するに当たってきちんと指導する人を育てたいっていう意味があったみたいで。 ・ 前の指導者がすごくできる人だったんです。それで引き継いだから。
プリセプターとしての成功体験	<ul style="list-style-type: none"> ・ プリセプターやっていた時に、1年通して成長してくれたっていう事があって、それに対してすごいやりがいを感じたんですね。それで、学生さんにもちょっと関わってみたいっていう事もあって、(中略)志願しました。

2) 実習指導者講習会において学びたいと考えていたこと

実習指導者講習会において学びたいと考えていたこととして、①現在の教育内容、②実習の狙いと教員の関りの意図、③効果的な指導方法、④評価方法、⑤自己の指導の評価方法の5つが語られた(表31)。

表 31 実習指導者講習会において学びたいと考えていたこと

現在の教育内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生が学校でやっていることも、自分のときとは違う。 ・ 学生がどんなことを学んでいるのかを知りたい。 ・ 看護教育って一体どんなことしてるんだらうっていう所が、(中略)私は全然未知の世界だったので。
実習の狙いと教員の関りの意図	<ul style="list-style-type: none"> ・ 看護実習とは何ぞやを知りたかった。 ・ 実習とはどういう狙いがあるか教員はかかわっているのかなって。
効果的な指導方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個人に合わせた手段、教え方をしたかった。 ・ (指導の)何かヒントになる知識があるのなら参考になる(と思った)。 ・ コミュニケーション能力の乏しい学生さんとの関わり方を学びたい。 ・ 学生には余計な緊張とか不安とかもあるんじゃないのかと思って、そういうの軽減の仕方とかあるんじゃないかな(と思った)。 ・ 行動を起こせない学生に対して、どうしたらアプローチできるのかな、そういうのを学べたらいいな(と思った)。 ・ いかに分かりやすく伝えられるかっていうところを学びたいなと思って。 ・ 教育の基礎知識が学べるかなって期待で行きました。 ・ 指導法って意味で、どう(学生を)成長させていってか。 ・ (現在の教育を受けている学生への)指導方法って何かあるのかなとか、理解の方法とかあるのかな、展開の仕方があるのかなとか(と思った)。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生がどんなことを学んで、評価しているってことを学びたい。 ・ (学生は)みんながんばっているから合格させてあげればいいのに、でも落とさなくてはいけない学生もいることに衝撃を受けた。
自己の指導の評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ その指導が本当に正しいのかっていう評価をする方法があつたらいいなって。

3) 実習指導者講習会において学ぶことができたこと

実習指導者講習会において学ぶことができたこととして、①自分自身が受けた教育と現在の教育の相違、②実習目標の理解の重要性と教員との関わり方、③指導技法、④学生理解と個別性をとらえた指導、⑤学生のロールモデルとしての役割を通じた学生の動機づけ、⑥部署のスタッフに対する働きかけの必要性の6つが語られた(表32)。

表 32 実習指導者講習会において学ぶことができたこと

<p>自分自身が受けた教育と現在の教育の相違</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今の学校の指導のことだったり、基礎から学べた。 ・ やっぱり教育体制が私たちの時とは違っていること。 ・ 実習期間が短くなっちゃっている。 ・ 昔に比べたら学生が打たれ弱いから配慮して指導する。 ・ 私たちが学生の時は本当に厳しかったけれど、それはいけないというのはわかりました。 ・ このまま（の指導の仕方）じゃだめだということを痛感した。 ・ 自分の頃、昔と今と、全然違うので、そこを理解したら全然苦痛じゃない（中略）、すごい意識や認識は変わりましたね。
<p>実習目標の理解の重要性と教員との関わり方</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一番は実習先のことを知る。学校の教育方針、実習目標とか。 ・ 実習目標に対して私たちの指導を変えてくこと。 ・ 教員と調整し、個々の学生のレベルで実習を進めていく。 ・ （看護学校の）先生と調整して実習を安全に終わらせる。患者さんの安全、学生にとっても安全に。 ・ （看護学校の）先生としっかり話をして（実習を）進めていくことが大事。 ・ 看護学校の教員と話し合う機会を持ってって繰り返し言われた。 ・ 教員と話す機会をこちらが頑張っって設けて上手いくようになった。 ・ 指導要項を読むようになった。要項を読んだら気になることが出てきて教員に声をかける。そういうところですり合わせとか話すようになったのかな。前は「なんで（看護学校の先生は）そう考えるんですか。私には全然理解できない」そういう感じで言ってたな。今はすごく上手いかなかった（看護学校の）先生と、うまくいってます。
<p>指導技法</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一緒に考えることが大事で、道標を示してあげるような指導（が大切と聞いた）。 ・ 教育心理とかコーチングとか、コミュニケーション技術とか具体的に学べた。 ・ 教材化っていうことを今までしてこなかったから新鮮だった。 ・ 学生の興味のあるところからアプローチしてみるのも一つの手ということを学んだ。 ・ 学生の考えの引き出し方、聞き方、関わり方、声のかけ方（を学んだ）。 ・ 実習指導案っていうのを自分なりに作ってみて、何を学んでほしいのか、それに対して、一日のスケジュールを組んでいくっていうことを具体的に考えることができた。 ・ 学生が分かっているところから（説明内容を）広げていくって説明の仕方。 ・ 一呼吸置いて、学生さんに任せてみるってのも、失敗しても何でもいから、とりあえずやって見せてもらって、こっちは我慢ってというのが（大切）。 ・ （経験的な）先入観にずっとこう付け加えていたものが、そうじゃないって所の根拠づけとか。 ・ （学生、スタッフへの）プラスのフィードバック。 ・ 相手をどういう風に理解するとか。
<p>学生理解と個別性をとらえた指導</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生の状況を把握し、その学生なりのゴールを設定していかなければうまく行かないことが分かった。相手を捉える前に自分の指導の何が（足りないのか）というところにか着目できていなかった。 ・ （学生は）みな同じところに向かうけれど、-2 から 0 になったらほかの学生のスタートラインだけ、（目標とする）5 になっていなくてもプラスになったところは褒めてあげなきゃいけない。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生への偏見、最近の学生はコミュニケーションができない、パソコンの前で情報を集めているっていうのは無くしたほうがいいのか。 ・ 学生が頑張っているところとか、良いところを見つける視野を持てるようにしていかななくてはだめだ。 ・ 今までは一方向的に説明していたが、学生の考えを確認してから、学生の状況を考えてながら教えられるようになった。 ・ 学生の気持ちになって考えましようみたいな授業もあり、一回学生に振り返られるみたいなの。 ・ 緊張して気持ち悪くなってしまう学生さんが結構いて、手術室のロッカーに「手術室へようこそ」みたいなイラスト付きメッセージを置いてみたり。オペ室で緊張しないでいっばい勉強してってくださいねみたいな。 ・ 学生に患者の状況を説明し、「（腰痛麻酔を受けている）患者が痛そうだ」という学生の思いを緩和させることで、学生が倒れないようにする（といった関わり）とか、倒れてしまいそうな学生は、無理に麻酔の導入は見せず、見せる手術も選んだり。学生に「こういう見て平気？」ってあえて聞いてから手術を見せる。 ・ 最近の若者の傾向的なそういう所。ゆとり、ゆとりって言うけど、でも、好きでゆとりじゃないとか。 ・ 「今の学生さんはこういう感じだよ」という感じで教えてくれて、接し方とかも学べた。 ・ 私達を中心って言うよりは、学生を中心はどう動いていってかという内容が多かった。 ・ 指導者って、こんだけ何か学生の為に寄り添って、学生が出来た事に、そっちに寄り添って、その目標を達成していく為に私は居るのかっていう（中略）認識がすごい変わった。
<p>学生のロールモデルとしての役割を通じた学生の動機づけ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ よいモデルになって欲しいって（講習会で）きいて。憧れられるような看護師に成れているかはわからないが努力はしています。 ・ 学生が感情を揺さぶられるような体験をすると（学生の）モチベーションが高まる。 ・ 自分の看護観のブラッシュアップもしなければならない。 ・ 患者さんと関わることがすごく楽しいんだよっていうことを伝えていけたら。
<p>部署のスタッフに対する働きかけの必要性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 私たちが（実習で）やっていること（部署の）みんなに伝える。そして（部署の）みんなに（実習に）協力してもらう。 ・ 結構プレッシャーも大きい仕事になるのかなと思ったんですけど、1人じゃ無理なので、そこは皆をどう巻き込んでやっていか、巻き込む事でより良い実習にしていってかというの、結構大事なのかなっていう。 ・ スタッフも、学生とちょっと関わらせる事で、スタッフ自身も成長していってかという事をスタッフにも気づかせるとか、そういうのも習って、それってすごいなと思って。 ・ あとは、もちろんスタッフにも、（中略）自分のこの昔と今と、全然違うので、そこを理解したら全然苦痛じゃないのになとかっていうのも、やっぱり発信していかなきゃなとか、すごい意識や認識は変わりましたね。

4) 実習指導者講習会でもっと学びたかったこと

実習指導者講習会でもっと学びたかったこととして、①学生心理、②教育技法、③教育評価、④実習指導上の工夫、⑤院内の調整や風土づくりの方法の5つが語られた(表33)。

表 33 実習指導者講習会でもっと学びたかったこと

学生心理	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生が緊張するポイントってところを知りたかった。 ・ 学生さんの精神面ってどうか、気持ちのところとかももっと学べるとよかった。
教育技法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教材化について結構時間をかけて(教えて)いただいたんですけど、実践に活かすまでには到達していない。 ・ 教材化の部分が難しい。どの場面にスポットを当てるか、学生に気づかせるってところがやっぱりすごく難しい。 ・ (教育実習で) 学生と関わっている自分を第三者としてこういう風にしたらよかったよっていう期間がもうちょっと長ければよかった。 ・ 指導案の練習みたいなのも書くのがあったんですけど、それもやっぱり時間が短くて、一コマではちょっと。
教育評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育の評価方法とか、もう少し理解したかった。 ・ 教育の計画書の講義もあって、自分の実習の教育計画の評価ってところまでは難しいなって。 ・ 自分の部署だったらどう(学生を指導する)っていろいろを考える機会があってもよかったのかな。
実習指導上の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外来(の実習)では、こっちが説明することがどうしても多くなっちゃう。ほかでどうやっているのか(教育実習で)見たかった。 ・ 指導者と教員(の連携)とか、教員が何してるのかっていろいろを見たかったですね。
院内の調整や風土づくりの方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ (学生が) 学ぶ環境としてウエルカムじゃないと学生さんも委縮してしまったりするから、実習指導者以外(の看護師)も同じ方向性をもって学生さんに向かう姿勢をどうやって伝えていったらよいのか。 ・ ドクターとの調整、ほかの消化器の看護師さんとかとの調整とかうまくできなくて。

5) 実習指導者講習会に望むこと

実習指導者講習会に望むこととして、①教育実習の期間や実施方法の工夫、②一方的な e-learning から双方向性のある教授方法への変更、③講習会主催者から受講生への連絡方法等、運営の洗練、④フォローアップ研修や実践報告会の4つが語られた(表34)。

表 34 実習指導者講習会に望むこと

<p>教育実習の期間や実施方法の工夫</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ (教育実習先の指導者が) 実習指導者講習会を修了していない人が教えていたので、私は何を見たらよかったのか。 ・ 実習はほぼ一日見学でした。 ・ 実習病院は自分の病院とは違うので、流れについていくのを把握し、戸惑いが消えるまでのことを思うと(実習期間が)短かった。 ・ 5日間あるうち(学生への指導を)実践するのが最後の2日。ちょっと短いついていうか、本当に(学生への指導が)よかったのか見るのに時間が足りない。 ・ (教育実習は) やっぱね、自分の部署に実習に来る学生の実習と同じ系統の実習をしているところがいい。 ・ 精神科行った人は、ちょっと物足りなそうな、発表するんですよ、そのプロセスレコードを。(中略) なんか困ってましたね、記録とかに。学生さんも分かんないし、自分も分かんないみたいなの。 ・ 実践してもう一回ちょっと講義でまとめてみたい感じがすると、その学んだ事があって、それが、2クール位あればよりいいかなとちょっと思いましたけど。 ・ 違う指導者さん、もしあれだったら、違う人に、違う所(部署)を、1か所じゃなくて、もう2か所違う所とか。 ・ 教員の方と色々情報共有したりとか、指導の事とかも共有しながら、一緒に学生さんの指導出来たら良いなっていう所が。
<p>一方的な e-learning から双方向性のある教授方法への変更</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ e-learning は全然身に入ってこなくて。 ・ e-learning は質疑応答も何もない。流しているだけみたいなの。 ・ e-learning は結局内容を覚えていない。食い入るように見るというようなところはなかった。
<p>講習会主催者から受講生への連絡方法等、運営の洗練</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 受講生のメーリングリストがうまく回らないことがあって、テスト送信をしてくれるとか、そういうのがあってもよかったんじゃないかな。 ・ (主催者のホームページに) お知らせが分かるようになってるのがあったらすごくよかった。 ・ 教務の人たちはグループのリーダーにしか伝えないので、後の連絡は各グループでやってくださいって言われた。 ・ (受講生個人の) 電話番号を連絡網にして紙で配るのもちょっとどうなのかな。 ・ 実習の準備とかでお知らせが中々なくて、本当突然もう、その時に全部言ったりとかするので、もうちょっと情報早く欲しいとかありました。 ・ 結構行く前に、実習に行く前に何か書くんですよ、自分の目標用紙みたいなの。あの書き方も結構明確化されてなくて、説明もちょっと、ほとんどの人が分からないような説明の仕方だったので、結構そこはみんな怒ってたと言うか。
<p>フォローアップ研修や実践報告会、同窓会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ フォローアップ研修がほしいよね。 ・ 受講生の同窓会。そのあとは飲み会。 ・ 何か例えば、それが終わって1年後とか2年後とかに、フォローアップ研修じゃないですけど、例えば、その時の人が集まって、また何か授業とかをやってもらったりとか。 ・ 交流会と、あとは、スキルアップの為に年度年度で何か。

6) 実習指導者講習会終了後の学び

実習指導者講習会終了後の学びたいとの意欲を感じる分野や学びを得る手段として、①看護に限定されない教育に関する分野、②看護の学会や講演会、雑誌・書籍からの学びの2つが語られた(表35)。

表 35 実習指導者講習会終了後の学び

看護に限定されない教育に関する分野	<ul style="list-style-type: none"> ・ モチベーションとかちよつと勉強しようかなって、本を買って。 ・ たテレビ番組の経済学の番組ですけど、上司と部下の関係みたいなのを見たりとか。 ・ 一般企業向けの新人教育などの指導場面を書いている本を見たり。 ・ 「若者の傾向」みたいな記事とか見ちゃいます。 ・ 本屋さんで自分の(部署の)診療科の本をみるときに、新人教育とか学生指導とかの棚も見ようになった。 ・ 世の中の医療がどう動いているのかとか、看護雑誌ももちろん買いますし。 ・ 看護過程の勉強もよくやってるじゃないですか、研修で、そこをまずちよつともう一回振り返らなきゃなっていうのと。 ・ 感情のコントロールの仕方を学んで学生に伝えられるとよいか。感情のコントロールを学びたいな。アンガーマネジメント。
看護の学会や講演会、雑誌・書籍からの学び	<ul style="list-style-type: none"> ・ ファシリテーターの研修は行きました。 ・ (講習会で)発言していない学生を発言させるっていう授業もあって、もうちよつと勉強したいと思って、アサーションの研修会に行きました。 ・ D教授の教育に関する講義を聞きに行きました。 ・ 実習指導者委員会のトップの方が、こういう本があるんだよって(実習指導に関する本を)教えてくれた。 ・ レポートの書き方とか、アセスメントの仕方とか、コミュニケーションの仕方とかっていう(研修)。 ・ うちに多い疾患の講習に参加して、自分の知識得たりとか。 ・ どうメンタルをフォローしていけるのかなっていうので、(中略)資格をそれで取ろうかなと思って、「メンタルヘルスマネジメント」。全く多分病院とはちよつと関係無い、企業向けのやつなんですけど。それを取ろうと思ったのは、指導者講習会行ったからっていうのもあります。

7) その他

その他として、①自身の学生時代の実習指導者に対する感謝、②実習指導の手ごたえの2つが語られた(表36)。

表 36 その他の意見

自身の学生時代の実習指導者に対する感謝	<ul style="list-style-type: none">・ 厳しかったけれど、ちゃんと考えてくれた上での厳しさだったんだというのがわかった。
実習指導の手ごたえ	<ul style="list-style-type: none">・ (学生に向けて掲示したメッセージカードを) 最後、はがして「ありがとうございました。持って帰っていいですか」って。だから自分がアプローチしたことが(学生に)伝わっているかな。・ やっぱり(教員と話し合いをすることで)うまくいくんですね。・ 実習指導者をやりたいって言ってくれる学生もいて「どうやったらなれるんですか」って。・ 助産師になりたくて看護師になったと言った学生さんが、(実習に来て)「(B)さん見てたら、看護師さんの方が楽しそう」と言ってくれて。「よーし」みたいな、何か、あー良かったみたいな。

8. 考察

実習指導者講習会での学びについて、多岐にわたる内容が語られるとともに、受講後の変化についても語られており、実習指導者は実習指導者講習会の受講により多くの学びを得ていることが示唆された。

また、受講後のフォローアップ研修は実践報告会を望む声が聞かれており、講習会の分割開催の必要性が示唆された。さらに受講者は実習指導者講習会以外の研修会等にも参加しており、単位互換ができるような制度を取り入れ、他の研修や講習会等との互換性を検討することにより、効率的、経済的な学習が期待できる。